IDFIインパクトファイナンス人材育成研修【基礎編】

How どのようにインパクトファイナンスを実施するべきか

1.4 主要な原則・ガイドライン



インパクト志向金融宣言
Japan Impact-driven Financing Initiative

基礎編の構成

基礎編は1.1～1.10の構成となっています。本日は、1.4についてご説明します

大項目		項目	
What	インパクトファイナンスとは	1.1	インパクトファイナンスの基本概念
Why	なぜインパクト投資に挑戦するのか	1.2	取り組みが拡大する背景と意義
Who	誰がインパクトファイナンスを支えているのか	1.3	インパクトエコシステムを構成する主要なアクター
How	**どのようにインパクトファイナンスを実施するべきか**	1.4	**主要な原則・ガイドライン**
		1.5	IMM①全体像
		1.6	IMM②戦略策定
		1.7	IMM③KPI設定・測定
		1.8	IMM④測定・把握／エンゲージメント
		1.9	IMM⑤進捗開示
Upcoming	今後の展望	1.10	インパクトファイナンスの発展テーマ

本研修回の目的

インパクトファイナンスの主要な原則・ガイドラインを理解する

インパクトファイナンスの定義・原則・フレームワーク・ツール・指標

インパクト投資の実践で参照される主な枠組みは、定義から指標まで5つの階層に整理できます

定義／基本的要素 Definition

GIIN「インパクト投資の中核的特徴」（Core Characteristics of Impact Investing）

インパクト投資家を特徴づける4つの中核的な実践

意図的な貢献 | **エビデンス** | **成果の管理** | **市場の成長**

金融庁「インパクト投資の基本的要素」

インパクト投資として実現が望まれる4つの基本的要素

意図 | **貢献** | **特定・測定・管理** | **市場変革**

原則 Principles

インパクト投資

インパクト投資運用原則（OPIM）

UNEP FI
責任銀行原則（PRB）
ポジティブインパクト金融原則

サステナブルファイナンス

責任投資原則（PRI）

（ご参考）ICMA
グリーンボンド原則
ソーシャルボンド原則

フレームワーク Framework

5 Dimensions of Impact
What／Who／How Much／Contribution／Risk
の5つの側面でインパクトを把握

企業インパクトのABC分類
成果・企業・ポートフォリオのインパクトを分類
A 害の回避　**B** 人と地球への便益　**C** 解決策への貢献

ツール Tools

インパクトレーダー（UNEP FI）：インパクトの領域を網羅的に特定するための分類

指標 Metrics

IRIS+（GIIN）
インパクト測定・管理のための指標カタログ

SDGs（国連）
国連サミットで採択された、2030年に向けた国際目標。
17ゴール・169ターゲット・232指標

出所：GIIN、金融庁、IFC、PRI、UNEP FI、ICMA、国連、Impact Frontiers「ABC of Enterprise Impact」（impactfrontiers.org）等を基に作成

GIINが示すインパクト投資家の4つの中核的な実践

GIINは、インパクト投資を特徴づける4つの中核的な実践を示しています。特に②と③は、エビデンスやインパクトデータを投資設計や意思決定に活用し、成果を管理するIMM（Impact Measurement and Management：IMM）の中核をなす考え方といえます。

GIIN（Global Impact Investment Network）によるインパクト投資家の中核的な特徴

① 社会面・環境面でポジティブなインパクトの創出に意図的に貢献する
② 投資設計において、エビデンスとインパクトデータを用いる
③ インパクト・パフォーマンスを管理する
④ インパクト投資分野の成長に貢献する

参照： https://s3.amazonaws.com/giin-web-assets/giin/assets/publication/post/core-characteristics-webfile.pdf

GIINが示す「意図的な貢献」

GIINは、1つ目の特徴として、財務的リターンと並行して社会・環境面のポジティブなインパクトに意図的に貢献することを挙げています。課題解決に資金を充てる意図を、投資の入口で目標と戦略として明示することが出発点となります。

GIIN（Global Impact Investment Network）によるインパクト投資家の中核的な特徴

1. **社会面・環境面でポジティブなインパクトの創出に意図的に貢献する**
2. 投資設計において、エビデンスとインパクトデータを用いる
3. インパクト・パフォーマンスを管理する
4. インパクト投資分野の成長に貢献する

意図的な貢献とは

- 財務面の目標と**インパクト目標を、透明性をもって設定する**
- **目標と、その実現に用いる戦略を明示した投資方針**（投資テーゼ）を示す
- ESG投資やネガティブ・スクリーニングと異なり、**社会・環境課題の解決への貢献を意図している点**が特徴となる

参照： https://s3.amazonaws.com/giin-web-assets/giin/assets/publication/post/core-characteristics-webfile.pdf

GIINが示す「エビデンスとデータの活用」

GIINは、2つ目の特徴として、入手できる最良の定量・定性のエビデンスとインパクトデータを投資の設計に用いることを挙げています。課題の特定から目標設定、戦略づくり、指標の選定までを、思い込みではなくデータで裏づけることが求められます

GIIN（Global Impact Investment Network）によるインパクト投資家の中核的な特徴

1. 社会面・環境面でポジティブなインパクトの創出に意図的に貢献する
2. **投資設計において、エビデンスとインパクトデータを用いる**
3. インパクト・パフォーマンスを管理する
4. インパクト投資分野の成長に貢献する

エビデンスとデータの活用とは

- 実証データや科学的知見に加え、対象となる人々やコミュニティーのニーズを踏まえ、**社会・環境上の課題を特定する**
- **投資が課題改善に与える貢献の目標を設定する**
- 有効性が確認された解決策と、潜在的な負の影響の理解に基づいて**投資戦略を設計する**
- 目標に対する成果を測る**定量・定性の指標を定める**
- **インパクト分析の能力を継続的に高める**

参照： https://s3.amazonaws.com/giin-web-assets/giin/assets/publication/post/core-characteristics-webfile.pdf

GIINが示す「インパクト・パフォーマンスの管理」

GIINは、3つ目の特徴として、インパクト・パフォーマンスの管理を挙げています。これは、インパクトデータを意思決定に活用し、社会・環境面の目標達成に向けて投資を改善していくIMMの中核的な取組みです

GIIN（Global Impact Investment Network）によるインパクト投資家の中核的な特徴

1. 社会面・環境面でポジティブなインパクトの創出に意図的に貢献する
2. 投資設計において、エビデンスとインパクトデータを用いる
3. **インパクト・パフォーマンスを管理する**
4. インパクト投資分野の成長に貢献する

インパクトの管理とは

- 投資のライフサイクル全体を通じて、可能な限り**フィードバックループを組み込む**
- 事前に設定したインパクト目標の達成に関わる**リスクを特定し、緩和策を策定**する
- **インパクトに関する実際のデータを、できる限り比較可能な形で投資家や投資先に開示する**
- 投資家の行動によって、**負の影響が与えられる事態を回避する**よう努力する

参照： https://s3.amazonaws.com/giin-web-assets/giin/assets/publication/post/core-characteristics-webfile.pdf

GIINが示す「分野の成長への貢献」

GIINは、4つ目の特徴として、より多くの投資家が効果的にインパクト投資を行えるよう、分野全体の成長に貢献することを挙げています。自らの実践を開示し、共通の基準や学びを市場と共有する行動が含まれます

GIIN（Global Impact Investment Network）によるインパクト投資家の中核的な特徴

1. 社会面・環境面でポジティブなインパクトの創出に意図的に貢献する
2. 投資設計において、エビデンスとインパクトデータを用いる
3. インパクト・パフォーマンスを管理する
4. **インパクト投資分野の成長に貢献する**



分野の成長への貢献とは

- これらの実践をどの程度用いているかを、**透明性をもって開示する**
- インパクト目標・戦略・実績の記述に、**共通の枠組みや基準を用いる**
- 候補となる共同投資家や投資先の**インパクト実績と管理の質を、意思決定に織り込む**
- 専有・非公開の情報を除き、**正負の学びやエビデンス・データを共有する**

参照： https://s3.amazonaws.com/giin-web-assets/giin/assets/publication/post/core-characteristics-webfile.pdf

金融庁によるインパクト投資の基本的要素 とは

金融庁は2024年3月に「インパクト投資（インパクトファイナンス）に関する基本的指針」を公表し、インパクト投資の基本的要素として4つの要素を挙げました。

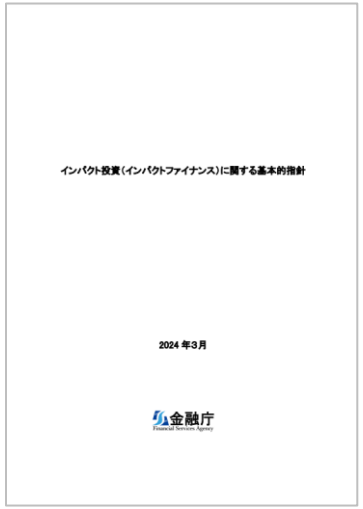
金融庁による「インパクト投資の基本的要素」

①実現を「意図」する「社会・環境的効果」が明確であること（Intention）

②投資の実施により、効果の実現に貢献すること（Contribution）

③効果の「特定・測定・管理」を行うこと（Identification /Measurement /Management）

④市場や顧客に変革をもたらし、又は加速し得るよう支援すること
（Innovation/Transformation/Acceleration）



https://www.fsa.go.jp/singi/impact/siryou/20240329/01.pdf

GIINのベストプラクティスを踏まえたIMMのサイクル

IMMでは、社会・環境面の目標とその達成に向けた戦略を設定し、KPIによる進捗管理、報告、改善を継続的に行います。GIINは、こうした一連の取組みにおいて、Theory of Changeや標準化された指標、ステークホルダーとの協働を重視しています

GIINのベストプラクティスを踏まえたIMMのサイクル

1. **戦略策定：投資家自身の社会的/環境的目標を設定**し、ステークホルダーに対して明示する
2. **KPI設定：**標準化された指標を可能な限り使用し、投資先に対して**インパクトKPIや目標を設定**する
3. **進捗管理：**インパクトKPIに関する**投資先のパフォーマンスをモニタリング・管理**する
4. **進捗開示：**社会的/環境的目標に対する進捗を**ステークホルダーに報告**する。データを用いながら次のサイクルに向けた改善を行う



出所：Global Impact Investing Network (GIIN), “What You Need to Know About Impact Investing” をもとにGLIN Impactが作成

OPIMが示すインパクト投融資の運用原則

OPIMは、戦略策定からエグジットまでの投資ライフサイクル全体を通じて、インパクトの観点を投資判断・管理プロセスに組み込むための9つの原則を示しています

OPIMのインパクト投融資の運用原則

戦略上の意図

1. 戦略的なインパクト目標を、投資戦略に沿って定義すること
2. 戦略的インパクトは、ポートフォリオ単位で管理すること

組成とストラクチャリング

3. インパクトの実現に対するマネジャーの貢献を明確にすること
4. 各投資から予想されるインパクトを、一貫したアプローチに基づき評価すること
5. 各投資がもたらしうる、潜在的なネガティブ・インパクトを評価、対処、モニタリングおよび管理すること

ポートフォリオマネジメント

6. 各投資のインパクト実現への進捗度を、予想に照らしてモニタリングし、それに応じ適切な対策を取ること

エグジット時のインパクト

7. インパクトの持続性への影響を考慮しながら、エグジットを実行すること
8. 投資の意思決定とプロセスをレビューし、文書化し、さらに、実現したインパクトと得られた知見に基づいて、改善すること

独立した検証

9. 本運用原則との整合状況を開示するとともに、整合状況について、独立した検証を定期的に実施すること

出典：国際金融公社（IFC） Operating Principles for Impact Management「インパクトを追求する投資：インパクト投資の運用原則 参考和訳」
https://www.env.go.jp/content/900515546.pdf

企業インパクトのABC 分類

インパクトを直接生み出すのは企業であり、**投資家は投資先企業を通じてインパクトを実現**します。企業の貢献はIMP（現Impact Frontiers）の**ABC分類**で整理され、アウトカムのベースラインと閾値の水準によってA・B・Cに分かれます

投資家 → 投資家の貢献 → **企業** → **企業の貢献＝ABC分類** → **人々と地球へのインパクト**

A. 害を回避するための行動
Act to avoid harm

人々のウェルビーイングや自然環境に対して自社が与えている害を特定し、社会的・生態学的な基準値で定められたポジティブな範囲に近づける行動。目標期間内にポジティブなアウトカムを完全には達成しない場合もある

B. 人々と地球への利益
Benefit stakeholders

Aに加え、影響を受ける人々やコミュニティに対し、害を避けるだけでなく、ウェルビーイングや自然環境の状態を維持・向上させ、基準値で定められたポジティブな範囲に収めることで積極的な利益をもたらす

C. 解決への貢献
Contribute to solutions

企業が関わる以前はネガティブだったアウトカムをポジティブな範囲まで改善する取組み。市場や政策の失敗で人々が必要なものにアクセスできない、天然資源の供給が危機にある等のケースが該当

出典：Impact Frontiers “Norms | ABC of Enterprise Impact” https://impactfrontiers.org/norms/abc-of-enterprise-impact/ 、GPIF（2026）委託調査報告書を基に作成

デットにおける原則の全体像

インパクトファイナンスは融資・債券（デット）でも実践されています。デットの主要なサステナブル／インパクト・ファイナンスは、「資金使途を特定するか」と「KPI・SPTの達成状況を金融条件に連動させるか」の2つの軸で整理できます

	KPI連動なし	KPI連動あり	主な策定主体
資金使途特定	**資金使途特定型** • グリーン／ソーシャル／サステナビリティ • テーマ別：ブルー、オレンジ 等 • クライメート・トランジション・ボンド、トランジションローン※1	**組み合わせ型** • グリーン×SLB等 • SLLB（SLLのポートフォリオに充当する債券）※3	**ローン** LMA・APLMA・LSTA **ボンド** ICMA（国際資本市場協会） **PIF** UNEP FI（国連環境計画・金融イニシアティブ） **国内** 環境省、金融庁、経済産業省
資金使途不特定	**包括的インパクト分析型** • ポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF）※2 • 事業全体の正負のインパクトを分析し、重要な領域のKPIをモニタリング	**KPI連動型** • サステナビリティ・リンク・ローン／ボンド（SLL／SLB） • トランジション・リンク・ローン／ボンド※1	

出所：LMA・ACT「Getting Started in Sustainable Finance」（2023年11月）、環境省「サステナビリティ・リンク・ローンによる資金調達の流れおよびフレームワークの概要」（2025年10月）、経済産業省 トランジション・ファイナンス関連資料、ICMA「Mapping of the Principles」（2026年6月）、ICMA「Green Bond Principles」等を基に作成
※1 トランジションは、発行体のトランジション戦略を前提に、資金使途特定型・KPI連動型の両方の形態で活用される ※2 PIFにも、プロジェクト向けの資金使途特定型モデル・フレームワークがある ※3 SLLBは、調達資金をSLLポートフォリオに充当する債券であり、KPI連動は主に裏付けとなるSLLにおいて行われる

代表的なアプローチの比較（資金使途特定型／KPI連動型／ PIF）

3つのアプローチは、何を評価・管理するか、資金使途を特定するか、金融条件にKPIを連動させるかが異なります。資金調達者の事業特性や金融機関の関与の仕方に応じて、使い分けたり組み合わせたりすることが重要です

観点	資金使途特定型	KPI連動型	PIF
主な原則	**【ローン】** **GLP**：グリーンローン原則 **SLP**：ソーシャルローン原則 **【ボンド】** **GBP**：グリーンボンド原則 **SBP**：ソーシャルボンド原則 **SBG**：サステナビリティボンド・ガイドライン	**【ローン】** **SLLP**：サステナビリティ・リンク・ローン原則 **【ボンド】** **SLBP**：サステナビリティ・リンク・ボンド原則	**ポジティブ・インパクト金融原則**
評価の対象	資金を充当するプロジェクト	事業・サステナビリティ戦略上、重要なKPI	企業活動全体の正負のインパクト※２
金融条件の変動	原則として連動なし	SPTの達成度に応じて金利等が変動	原則上、金融条件との連動は要件ではない
外部評価	外部レビューを推奨※１	事前レビューは推奨／SPT実績の事後検証は必須	必要に応じてセカンドオピニオン／第三者保証を取得

出所：UNEP FI「ポジティブ・インパクト金融原則」、LMA・APLMA・LSTA「Green Loan Principles」「Social Loan Principles」「Sustainability-Linked Loan Principles」（2025年3月）、ICMA「Green Bond Principles」「Sustainability-Linked Bond Principles」、LMA・ACT「Getting Started in Sustainable Finance」（2023年11月）等を基に作成。長所・留意点のうちPIF列は本資料作成者による整理
※１　資金使途特定型では外部レビューが推奨される。なお、ローンでは、借入人が十分な社内専門性・体制を有する場合、自己評価も認められている
※２　資金使途特定型とKPI連動型の特徴を併せ持つ商品には、両方の原則・ガイダンスを適用する（ICMA）

ラベルとインパクトの関係

グリーンやサステナビリティ等の原則・ガイドラインに適合する金融商品であっても、それだけでインパクトファイナンスとしての実践が十分とは限りません。意図・貢献・測定・管理といったインパクト投資の基本的な要素を確認することが重要です

インパクト投資の基本的要素	原則・商品設計で確認される主な事項	インパクトファイナンスとして追加で確認したい点
意図（Intention）	資金使途、KPI・SPT、重要なインパクト領域の特定	解決したい課題と、恩恵を受ける対象者（Who）が明確か
貢献（Contribution）	資金の提供、金利のインセンティブ、伴走・対話	金融機関の関与によって生じる変化か（追加性）
特定・測定・管理	インパクト・レポーティング、KPI実績の検証	アウトプットだけでなく、アウトカムまで把握しているか
変革・加速	対象事業の拡大、企業全体の行動変容	業界平均並み（BAU）を超える野心的な水準か

出所：金融庁「インパクト投資（インパクトファイナンス）に関する基本的指針」（2024年3月）、金融庁・GSG国内諮問委員会「デットにおけるインパクトファイナンスの考え方とインパクト測定・マネジメントガイダンス」（2023年7月）、インパクト志向金融宣言 融資・債券分科会「同ガイダンス別冊～エンゲージメントに関する現状課題と今後の展望～」（2026年3月）を参考に本資料作成者が整理

資金使途特定型：代表的なラベル(グリーン／ソーシャル／ブルー／オレンジ)

資金使途特定型には、グリーン／ソーシャルのほか、ブルーやオレンジなどテーマ別のラベルがあります。グリーン／ソーシャルは、資金使途、プロジェクトの評価・選定、資金管理、レポーティングの4要素を基本とし、ブルーやオレンジでは、対象テーマに応じた追加的な要件・ガイダンスが設けられています

ラベル	主な原則・ガイド	概要	国内の主な事例
グリーン	GLP（LMA等）、GBP（ICMA）、環境省ガイドライン	環境改善効果のあるプロジェクトに充当	事業会社・自治体・金融機関による発行・組成が多数
ソーシャル	SLP（LMA等）、SBP（ICMA）、金融庁ガイドライン	社会的課題の解決に資するプロジェクトに充当	同上
ブルー	ICMA等「Bonds to Finance the Sustainable Blue Economy」（2023年）	海洋・水関連の適格プロジェクトに資金使途を特定	マルハニチロ（2022年、国内初）、千葉市（2023年、自治体初）
オレンジ	Orange Bond Principles（2022年）	ジェンダー平等に資する資金配分に加え、意思決定体制の多様性や透明性も重視	伊藤忠商事（2025年、国内初）

出所：LMA・APLMA・LSTA「Green Loan Principles」「Social Loan Principles」（2025年3月）、ICMA「Green Bond Principles」「Social Bond Principles」、環境省「グリーンボンド及びサステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン」「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」（2026年版）、金融庁「ソーシャルボンドガイドライン」（2021年10月）、ICMA・IFC・UNEP FI・UNGC・ADB「Bonds to Finance the Sustainable Blue Economy」（2023年9月）、Orange Bond Initiative「Orange Bond Principles」（2022年10月）、各社・自治体公表資料
※ このほか、サステナビリティボンド（グリーン＋ソーシャル）、クライメート・トランジション・ボンド、チャイルドレンズ（UNICEF）等のラベル・枠組みもある

KPI連動型：サステナビリティ・リンク

資金使途ではなく、借り手・発行体があらかじめ設定したKPIとその目標（SPT）の達成度に応じて、金利などの条件が変わる商品です。企業全体のサステナビリティ戦略と資金調達を結びつけ、目標の達成を後押しします

5つの核となる要素（SLLP・SLBP共通）

1. **KPIの選定**
   事業にとって重要で、測定・ベンチマークが可能な指標
2. **SPTの設定**
   KPIごとに期限付きで設定。過去実績・同業他社・科学的根拠と比べ、BAUを超える野心的な水準
3. **ローン・ボンドの特性**
   SPTの達成度に応じて金利・クーポン等が変動
4. **レポーティング**
   KPIの実績とSPTの達成状況を少なくとも年1回報告
5. **検証**
   SPTの達成状況の独立した外部検証

最新動向

- SLLP（2025年3月改訂）：必須・推奨・任意の区別を明確化
- SLBP（2024年改訂）：KPI選定を明確化、KPI Registryを参照
- 環境省：SLL／SLBガイドライン2026年版

資金使途特定×KPI連動の組み合わせ型の例

- **Verbund（2021年4月、5億ユーロ）**
  水力発電・送電網に充当。再エネ容量等のSPT未達で2033年からクーポン＋0.25%
- **日本航空（2023年3月、トランジション・リンク・ローン）**
  省燃費機材への更新に充当。KPIはGHG排出量、SPTはTPIの1.5℃シナリオと整合する2025・2030年度の削減目標。達成状況に応じて融資条件を調整

出所：LMA・APLMA・LSTA「Sustainability-Linked Loan Principles」「Guidance on Sustainability-Linked Loan Principles」（2025年3月）、ICMA「Sustainability-Linked Bond Principles」（2024年6月）、LMA「Practice Note on the Application of the SLLP to SMEs」、ICMA・LMA「Guidelines for Sustainability-Linked Loans financing Bonds」（2024年6月）、環境省「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」（2026年版）、VERBUND AG プレスリリース（2021年3月25日）、日本航空 プレスリリース（2023年3月）

ポジティブ・インパクト金融原則（PIF原則）

UNEP FIは2017年、企業活動が環境・社会・経済に与えるインパクトを包括的に分析して資金を提供するための原則を策定しました。ネガティブなインパクトを緩和・管理しつつ、ポジティブなインパクトの創出を支援する点が特徴です

ポジティブ・インパクトの定義：経済・社会・環境のいずれにおいても潜在的なマイナスの影響が適切に特定・緩和され、かつ少なくとも一つの面でプラスの貢献をもたらすこと

原則1　定義	原則2　枠組み	原則3　透明性	原則4　評価
上記の定義を満たす投融資を、ポジティブ・インパクト・ファイナンスとする	投融資先のインパクトを特定・管理するプロセス、方法、ツールを備える	資金提供先、判断・モニタリングのプロセス、達成したインパクトを開示する	実際に達成されたインパクトに基づいて評価する

分析・実装ツール（UNEP FI）

- モデル・フレームワーク（2018年、資金使途不特定型／特定型）
- インパクトレーダー（2026年版）、Sector Impact Matrix

国内の展開

- IDFI地域金融分科会「PIF実践ガイダンス」（2025年）で業種別の共通KPIを提示
- 原則はローン・債券・株式など全ての金融商品に適用可能。国内では融資を中心に普及

出所：UNEP FI「ポジティブ・インパクト金融原則」日本語版 https://www.unepfi.org/wordpress/wp-content/uploads/2018/09/POSITIVE-IMPACT-PRINCIPLES-JAPANESE-WEB.pdf、UNEP FI Impact Radar https://www.unepfi.org/impact/impact-radar/、環境省「インパクトファイナンスの基本的考え方」（2020年7月）、インパクト志向金融宣言 地域金融分科会「地域金融機関向けポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF）実践ガイダンス」（2025年5月）

本研修回のクイズ

以下のQRコードからクイズに挑戦してみましょう！
皆さまのご回答へのご協力をお願いいたします。



インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

